

認知症初期集中支援チーム設置後の効果に関する研究事業

目的

認知症の早期診断、早期対応の体制整備を促進するため、これまで全国自治体への認知症初期集中支援チームの設置に向けて、チーム員の研修を実施、チーム活動実績の把握・分析、具体的活動事例の集積と情報提供など、厚労省老人保健健康増進等事業の枠組みにおいて認知症初期集中支援チームにかかる事業を展開してきた。昨年度からは、全市町村に設置された認知症初期集中支援チームの活動の支援および評価に重点を置き、継続的に同施策の推進を担っている。

本年度は、昨年度に試案を作成したチーム活動の評価指標を用いて、全市町村の認知症初期集中支援チームを対象としてチーム活動の自己評価を行い、評価指標の検証を行うとともに、同指標に対する意見収集によって、更なる精度向上と普及策の検討を行う。

事業概要

平成 30 年度の調査結果から試作した評価指標をベースとした本年度版の調査票で、全てのチームに対して改めて評価指標調査を行った。調査では、自己評価を行うとともに、追加した項目を含めて新たな基礎データを収集した。

- ①チーム員が自己評価できるような自己評価マニュアルの作成
- ②全チームに対してマニュアルと評価用 CD を郵送し回答を回収

本年度の調査票は、チームや対象者にかかる調査回答を行う過程で、チームのスコアが計算され、そのスコアによって自己評価を行えるものとした。

調査票ファイルには、回答方法とともに、自己評価の手順も含めて提供した。

- ③チームの所属やチーム員数、背景人口などを勘案したチーム評価尺度の作成

本年度の調査項目は、チーム属性にかかる新たな項目を 4 つ、評価指標にかかる新たな項目を 3 つ追加し、昨年度版の評価指標のブラッシュアップを行った。

事業結果

回収状況は市町村票ファイル 804 ファイル（回答率 46.2%）チーム票ファイル 1,007 ファイル（回答対象者数 3,777 人）であった。

5 つの項目と相関し 2 つの項目に影響を与える、「医療/介護引継」が重要な評価指標であり、この認知症初期集中支援チームの本来の役割から考えても重要な評価項目である。これと並んで「初動日数」は 3 つの項目に影響を与えている。「困難事例への対応」は「かかりつけ医連携」を高め、間接的に「医療/介護引継」を向上させている可能性があり、これも評価指標として有用である。

「支援対象者数」は、「初動日数」の短縮と、条件はつくが「医療/介護引継」に相関する。「会議時間」は延長させるが「会議時間」の延長は「訪問回数」の増加と相関するためにポジティブな効果と考えられる。総合的に考えると「支援対象者数」も有用な指標として取り上げる価値がある。